

市川小団次 米

三座のうちになくはならぬ五つくの

さかしらチトこつぶなれどもみのり

よく惣けいにゆきとらき年中しよくすとらへともあきる

ことなくおひ／＼やすめをうるゆゑしよにんこそつて

しようくわんするほうねんのおやだま／＼

尾上菊次郎 大豆

そのつかひみちさま／＼

にしてみそとなりてさ

けんぶつのはらにいりてころろにかふしめとらふと

なりてはたておやまのやはらかみをあらはすこと

さすかさんがのつの一トつぶよりくわん目はおもひ

まめたはらみいりはわぎのてきあき／＼

中村鶴藏 麦

このしなごめに

へ／＼／＼／＼／＼

下ひんなれども二日多ひのはらをなをて

そのこうさま／＼／＼ありわかい女中のくちには

あはねどとほりものよばしよにあきた見物

のはらを多ぶるだうじのきょものよ／＼目をあぢあぢ

／＼／＼／＼／＼

みそのみそくさきは真の

上みそにあらざと

いへどもこのみそ三都にわたりてわざによく  
なれずぬぶんあぢはひ上ひんなりされども  
をり／＼みそをあぐるひやうばんありて切おとし  
のくちになはずわるくいへとこれもまた  
なくてはことのかけるをりあり

坂東三津五郎 芋

十五夜のきぬ

うつきにいまだ一トかはかぶつて  
あれどもあちはひのすくれたるせんだんのふたばびんがの  
かいこおひ／＼みがいつたらねうちもだん／＼のぼりませう

市川市蔵 栗

ひとかはむけたうちからしづみがあつたが  
たうじあまかはかむけたゆゑおひ／＼うまみか  
てられましたとけのあるころもをぬいてはやうけいたうをまるくして  
見せるへ中にむしかあるとすてられてしまいます

中村福助 小麦

つかひみちによつてちよつとまにあひずぬふん  
よるこなざれ升がなにをいふもおとしわか  
ふたいのしまらぬところは年功のないせいもそつとからた  
にひれがついたらてうほうな所はやふ出世がまたれ升

中村芝翫 味醂

チトあまくちだけむすめ

たちや下戸れんのうけ

いたつてよく上戸もひとくちなめてみるきになるは

なかれ山のめいさんたけてムリ升たかし此所がはいらなければ

いつなるかこうちんみでもあちはひよからずしかしあまりみりんか

すきてはくちにあはぬ人もあれどせうちうへわつたあちはたれに

でもむく大徳利てんのゆるした徳者のたてものくちあたりの

よい上ものく

岩井桑三郎 梨

さつくりしてあちはひは

かみしめるだけひんよくしかもされていってどこといつてなんはなけれどもそつと

はたらかしてみたいひいきのよめしかしすはらしておいてもねうちはありません

河原崎権十郎 柿

すこししづみがあつていろづくにしたかひ

おひくうまみがでるわかてのさしもの

すはふのいろにそめあげてはやう九代の名をとりたいとひいきれんの

大まちかねまるでしふいとほきたれ升とかくみりがかんじんく

市村羽左衛門 そば

さらしなのめいさんひとかはむいたきれい

ごとあちはひの上ひんはおいへからなりちすぢなりこれに

たまごのつなぎをいれて江戸のしたじでくはせるゆゑしよにんのくちにかなふはひつじや  
う

そのあぢはひくからずさつはりしてとらこほらずしかしかやうなめいひんもしたじがな  
ければ

たべられませぬとかくあひ手がかんじんく

沢村田之助 餅米

しんまいにしてはチトできすぎたほいきほひ上戸がとるときにうへとも

下戸のうけのよいことはこのしなにかぎりまずされともあまり

しよくすぎるとむねがやけてもたれます

市川団之助 粟

あぢはひたんはくにしてまさかのときのくからう

ともなり口にいつてこうあれどもうまいもの

すきはとかくやすくあつかひますぞや

浅尾与六 稗

太平の世の人はこの品の口にいるをしらず

つちのさぎにふまれてきんぎよはちぢ

をはるとおもひとかくやすくあつかはれるはさんねんく

坂東彦三郎 酒

うれひのたなはく九百やくの長たらし三都の

きくもの大なんでこなされただけあつまへくだりの

いつほんぎしん川に下戸のたてたるくらはなしみんな上戸のはらへりふねをれども

ゑふてはしあんにあたはずさめてのうへのこふんべつこめん候へたはいく

沢村訥升 小豆

小つぶなれども上ひんのひとつぶゑりあぢはひたんはくにして

はらに功あり大なこんのくらゐづけ極といふじがまたれ升こしゆつせいく

市川団藏 せうゆ

たうじ三座の大だてもこのしななくてはなにしてもあちはひ

美がならずふだんはさのみにおもはねど一ツうけると

さくみかしまらずらうこつなきとものく

関三十郎 塩

あちはひ美ならずといへども

てうせきこのしななくてはならず

おひくこつをつむたけにそのあたひみぢんつもつて

千りやうにちかつき升

板東亀藏 酢

あまくからくにかみがあつて

すいはもちろんうまみもあるは

五味をかねたるとしのこつなんといふてもあちはひの

かるいところはほかになしおつなふうみのさんばいす

さん座のくわんしよばんだいのみのがめく

ひとくちなすのころ

よりもよほどあぢはひの

あるしなであつたかな名まへがよすぎたかなかごろ

あらしではなおちがいたしましたしかしこんど

なくたりでうまいあぢをおだしなされあきなすはよめに

くはすなといふたとへのとほりうまいあたりをねかひ升

片岡我当 りんご

ちひさけれどもすきとほる

ほどきれいなくだものしよく

にはたりねと一ツや二ツみかけからたべてみたいと思ひし

かみしめるとすいところにうまみがあつてなか／＼ようとなさ

れ升ばあまりすきでもないのがざんねん

片岡仁左衛門 大根

おほあぢなれとも

ふうふうきにしてくよく

かみしめるときはいちだんのふかみありまた

たくあんのころのものおしのき／＼とさすがは

一個いつこのおほだてもくのくにいつてくすりとなれども

ちかごろなかにすができて大きにうまみを失ひ升た

作者 半文舎他笑